

海南高校 国公立大合格者対談



進学先

和歌山大学
教育学部小阪 渚月さん
海南高校

進学先

和歌山県立医科大学
保健看護学部橘 千夏さん
海南高校

進学先

大阪公立大学
現代システム科学域谷村 さくらさん
海南高校

インタビュー

岡 哲司
(AC ターミナル校カウンセリングスタッフ)

志望校を決めた理由や時期、将来のビジョンは？

橘 : 和医大の看護と決めたのは中3の時。もともと助産師が一番大きな夢で、そのためには資格が必要だったのと、家から通学したかったので、一番あてはまっているのが和医大の看護だったから。だからこそ海南高校にしました。推薦をとりたかったの。姉の知り合いで一般入試で受けている人とかもいて、けっこう難しいことは知っていたし、自分の学力にそこまでの自信はなかったから、しっかり評定をとって推薦を狙おうと考えました。それで中3の時に家族にも担任の先生にも伝えて。もっと上の高校を狙うようにも言われたけど、変更して。結果、有言実行できました。評定4.9でした。足りなかったのは体育(笑)

2人 : すごすぎる！

谷村 : 私は、最終決めたのは遅くて。高3の7月。それまではぼんやりとしか考えてなくて。文学部とかも言っていたけど、自分は飽き性だから学部を絞って4年間学ぶっていうのがちょっと怖かったです。で、仲の良い先輩から大阪公立大でいろんなことができるっていうのを教えてもらって、いいなってなりました。

岡 : でも高1・高2もしっかり評定取れていたよね。そのモチベーションは？

谷村 : 特に何にも考えてなかったです。でも、テストで低い点数をとるのは普通に嫌だったから。それで高1高2も取れていました。まあ今思えば、勉強も頑張ったのかな。大学を卒業した後、どう進むかっていうのはこれからの4年間で決めたいなって思っています。

小阪 : 私は、将来絶対に先生っていうわけではない

けど、子どもが好きだし、教育実習とかをしたら「先生になりたい」ってたぶん思うんだろうなとは思いますが。でも"とりあえず子どものことを勉強したい"っていうのが今の位置。大阪公立を目指している間に、ヤングケアラーや子どもの福祉関連についてけっこう詳しくなったと思うから、"どう教えるか"というよりも子どもに関わる心理学とか福祉のことも勉強したいなって。ヤングケアラーのことについては、高1の総合の時間に、一緒に進める班の友だちと何をしようってなった時、学校でヤングケアラーのポスターを見て、じゃあそれを題材ってなったのがきっかけです。それで本を読んだりして調べて発表したことが始まりでした。あと、子どもに関わりたっていう気持ちは小さい頃からありました。小学校の一番初めに"将来の夢は"って聞かれたら「学校の先生とか幼稚園の先生」とか答えていたくらいに。そこからいろいろはさんだけど、でも最後はやっぱり子どもに関わる仕事がいいなって思っています。

高1の勉強の仕方や、やっていて良かったことなどを教えてください。

橘 : 定期テストの準備は1か月前くらいからやってきました。電車で往復1時間あるので、次の日の小テストの勉強をして。テスト期間が近づいてきたら授業のあとの短い休憩時間に教科書に線を引いたり課題を終わらせたり。勉強をやらない日があったとしても、その分違う日に取り返していました。部活の日も。ビジョンが見えすぎているくらいだったので、そのために今の自分に必要なものっていうのもその時から分かっていたので。

2人 : すごっ。家が遠くて帰るのも遅いの。

橘：遊ぶときは遊んで、楽しんでほしいけど、電車の無駄時間は無くすようにしてたかな。周りに賢い子が多かったからその子たちにも影響されて。きちんと目標を決めて。"絶対に何位に入る"っていうことと"To Doリスト"。数学は苦手だったので、早め早めにやって復習。「4プロセス／数研出版」は定期テスト前に絶対3周はしてた。

谷村：私は、「4プロセス」は、できない問題を2回やっていたくらい。「チャート式参考書／数研出版」や教科書の問題なんかもいろいろ手を出していました。

小阪：私が力を入れていたのは小テスト。高1から週1回ある中で、英単語は1年間絶対満点をとろうと思って、達成しました。初めはそこまでは思ってなかったんですけど、高1の初めはやっぱり勉強しないと思ってやったら満点で。何度か満点をとったら後戻りできなくなって(笑)。これだけはやり続けようって思うようになりました。

谷村：続けていたら、続いてしまうってあるよね。私は、数学は毎回友だちから質問があるからっていうのもあった。質問されるなら絶対に教えられるようになりたいから、完璧に答えを理解したうえで教えるっていうのをやりました。それは大きかった。

橘：私は、生物基礎の勉強の仕方が良かったなって思う。ただ線を引くとかではなくて、大きめの付箋に細かい情報とか参考書で初めて知ったことを書いて、教科書に貼っていつていました。教科書を自分でレベルアップさせていく感じで。受験が近づいたときにそれがめちゃくちゃ役に立ちました。いろいろ参考書を開いて調べなくても教科書に載っていることが全部っていう状態になっていたの。

小阪：分からないことを千夏(橘さん)に聞いたら「ちょっと待って」って教科書開き始めてたもんな。

橘：辞書みたいなものだから。

小阪：私は、勉強時間を可視化できるアプリは高校入学の次の日からやってました。中3の受験が終わってから"高1からやっておいた方がいいこと"みたいな特集をいくつか見た時に、おすすめアプリってあったの。もともと勉強は頑張ろうとは思っていて、可視化したらやる気が上がるタイプだったからいいかもって考えて。高1では周りにやっている子はまだいなかったの、アプリ内の友だちは0で。でも、誰かのを見てやる気をアップっていうよりも、自分の勉強時間を見て継続するためだったから良かったと思います。

谷村：私は、勉強はテスト期間くらいで、普段は軽音とかだったかな。だから勉強時間は少なかったと思う。

小阪：でも、さくら(谷村さん)は私からみたら要領がいいっていうか賢いっていうか。これが要るこれは要らないみたいなのを判断するのがうまいから、少しやって伸びている感じがった。もちろん私が知らないだけで他で頑張っていたのかもしれないけど。

谷村：時間をかけないものは全くかけないし、かけるものにはしっかりかけるタイプではあったかな。

小阪：そう。それがかっこいい(笑)。懂れる。ポジティブやし。

橘：割り切ることは割り切れるもんな。ポジティブだし、近くにいてくれてよかったって思う。

岡：谷村さんの志望理由書を読ませてもらったけど、"美しい"文章っていう印象だった。ああいうのは、どこで養われたもの？

谷村：本を読むのが好きっていうこともあるかも。日本文学とかを読んでました。村上春樹とか、川端康成。筒井康隆とか。

岡：言語能力高いよね。幼少期から本を読んでいた子だろうなっていう文章。志望理由書の日本語があまりに綺麗だったからコピーとらせてもらったくらい。ひとつひとつの言葉のチョイスが素晴らしくて。これは絶対大学教授にも伝わるといった。



AcademyCampusに来てくれたきっかけは？

小阪：もともと、塾は中3の受験ギリギリで近くの個別指導に少しに行ったくらいで。勝手に集団授業が苦手だと思っていたから、高1の6月くらいに塾を探した時にも個別指導でいろいろ探して。それで入ったのがJ-CAMPUS海南駅前(個別指導部門)。高1高2の間は、JCで定期テストの対策として分からないところを教えてもらっていました。で、高3になった時には、受験のための勉強にシフトしたいなと思って。もっと頑張らないかっていう感じの環境に身を置きたいことをJCの教室長に相談したらアカデミーを紹介してくれて。近くの海南駅前校もあるけど、知らない子たちの中で周りから刺激を受けたかったから、あえてターミナル校にしました。あと、アカデミーに英語の先生で良い先生がいるっていう噂は聞いていたのもありました。ヨッシー(吉田先生)の噂。それで、とりあえずアカデミーに入ってみて、友だちもできて。で、ヨッシーの授業を受けてみた時に「すごい！」ってなって、二人(橘さん・谷村さん)に「来て来て！」って(笑)。

2人：誘われて入りました(笑)



受験でしんどかった時期などありますか。

谷村：全くしんどくないってことはないけど、自分は別にどうなってもいいかなって思ってた。勉強した分の成果が出れば、それでいいっていう感じで。だから自分のことでめちゃくちゃしんどいっていうのはなかったけど、周りの友だちはすごく頑張っているから"みんなが受かったらいいのに"っていう気持ちはあったかな。私はそんな風にしか思ってなかったかも。

橘：私は、しんどかったのはいろいろ出てくる。一番は、他の子と比べてしまうこと。私の場合は全部そんな感じで。スポーツとか勉強とか何でもそうなんですけど、周りを見て落ち込んでしまう。上を見すぎてしまう。理想が高いというか。自分で掲げるものも大きいし、それと自分の実力との差にショックを受けて。あと、受験期は周りの同じ志望校の子の点数とかが嫌でも聞こえてきて、家で泣いたりとか。一時期、学校の帰りとか寝る前とかに、マイナスなことばかり考えてしまっていました。でも、全国模試とかで全国の数字を見て比べてしまうけど、自分が目指す学校に集まるのはその中のほんの数人だから、結局そこに入ることができればいいんだからって思ったら、今頑張るしかないって思えてきました。それで、最後は自分のことに集中できるようになった。

小阪：私が一番落ち込んだのは推薦で落ちた日。思い出しただけで泣きそう。家の階段の上で結果を見て、わーって泣いて。そしたらお母さんが下から駆け上がってきて(笑)慰めてくれて。その日はもう何もせずずっと寝ていました。けっこう自信があったから余計に落ち込んでしまって。で、次の日の朝一に本屋さんに行って、推薦がダメだったら買おうって決めていた参考書を買いました。二番目は前期で受けるのが一人になった時。千夏(橘さん)は2月初めに発表で、さくら(谷村さん)は受かっていて。塾でいつも3人だったのに、急に「1人だ」ってなって。周りの仲のいい友だちも推薦とか指定校ではやく終わっていて。一般入試の人がいなかったから、これで前期で受からなかったらヤバいって焦りました。こんなに遊ぶ約束いっぱいしてるのになって(笑)。受かったらこの日遊べるかなって話をしていたのに、もし後期までいったら、他県に行く子とかに会えなくなるし。ヤバい、無理ってなっていました。これまでと勉強の内容も変わるし。それまでは「大丈夫、行ける」って思っていて大口たたいていたから、不安になってきた時に周りにも言いにくくなってしまって。わーどうしようって。しんどかった。

橘：あの頃は、こっちはなんて声をかければいいのかも分からなかった。

小阪：そう。その気持ちも分かっているから無理とか弱音を言えないし。これは頑張らないってなんとか切り替えて。受かってよかった。



ACクラスライブ授業について教えてください。

谷 村： 塾に入るまでも英語の勉強をしてきたけど、それが共テに役立つかっていうのは別だなんて吉田先生の共通テスト対策英語を受けた時に思いました。

橘： 私も、英語はもともと好きで時間内に解けてはいたんです。正確性には欠けていてもスピードはあって。それが、吉田先生の共テ対策を受けて両方できるようになった。自己流で取り組んできたところがあった英語が"根拠をもって答えを導き出す"っていう風になった。

小 阪： 私も、違う角度から解き方を提案された感じで。それまでは順番に解いていたところが、急に答えがバンって出る感じ。「え？こんなので解けるの？」って衝撃でした。ここを見ればいいとか、共テだけの解き方とか。授業を受けていたら知らない間にスキルが上がってた。

橘： そうそう。今までの積み重ねが、ヨッシーの授業を受けて急に花が咲いたって感じ。単語とかは覚えていたけど、それを自分が読む文章でどう使うのかっていうのは塾に来るまで分かっていなくて。コツコツ覚えた熟語・単語を"ここでこう使う"とか"これはトラップだから気をつけないといけない"みたいなのがつながりました。やっとこれまでの努力が意味を成した感じがして、めっちゃ感動したのを覚えている。

小 阪： 千夏(橘さん)ずって言ってたよな。

谷 村： あとは、吉田先生の難関大二次対策講座。途中から入った時は"間違えた"って思った(笑)。

小 阪： さくら(谷村さん)が来てくれて助かった。私は先に受けていて、周りが賢い子ばかりだったから「ヤバい。できない。無理。こんなところ目指そうとしてんの？こんなクラスに入っているの？」って不安になって。で、さくらを巻き添えにした(笑)。でも、最終的には、力になったって思います。入試当日に、それまでの過去問では出てなかった英作文が出てきたときに「ヨッシーありがとう！！」ってなりました(笑)。英作の問題を見た時は「え!?聞いてない」ってびっくりしたけど、よく見ると「やったことある！」って。頑張ってたことが報われました。

谷 村： 私も入試で英訳が3題くらい出たから助かった。あと、授業ではいろんな題材を扱ってくれたから、それも良かったと思う。あれだけの内容を教えてもらえるって、すごい。

サテライン講座についてはどうでしたか。

橘： 理社特訓(1日で90分×4回の完結講座を受講・復習する特講)はめっちゃしんどかった。でもアカデミーの先生たちが、休憩時間にクイズ大会とかで盛り上げてくれたり、ちょっとしたお菓子をくれたり。受験期ってそういう些細なことがめっちゃ染みる(笑)。普段の自分だったら「ふーん」って感じなのに。心温かさや優しさがぐって染みる時期で(笑)。だから楽しくて。みんな頑張っているから集中できるし。授業は1日で詰めこんで終わるけど、その終わりが始まりみたいな感じで。これからもっと頑張るしかないなって思わせてくれました。授業は、鈴川先生の生物基礎がめっちゃ面白かったです。

小 阪： 鈴川先生の授業はクセがあるよね(笑)

橘： 内容も濃くて。あれを受けたら一日で変わる。

小 阪： 私が良かったって思うのは蔭山先生の倫理。倫理の専門の先生ってあんまりいない中、サテラインの先生は専門だからわかりやすい。参考書の詳しい版って感じで。サテラインの授業で作ったノートも共テ前に持っていきました。それを見るだけで分かるから。結局、共テでも倫理が引っ張ってくれたし、受けて良かった。

谷 村： 私は佐藤先生の世界史。本当にやってよかった。問題構成とか、選択肢の削り方とかを教えてくれるから「へー！」ってなった。それを知らなかったら頭の使い方を損するところでした。あと、サテライン講座は自分に必要なところを集中的にできるから良かったです。

後輩にアドバイスやメッセージをお願いします。

橘： 人それぞれの勉強の仕方とかあるのはもちろんだし、勉強に対する姿勢とか目標もバラバラなのは分かるけど、ちっちゃいところからでもいいから成功体験を1個ずつ作ってほしいなと思ってます。私も高校受験まで全然勉強に自信がなくて。ちょっと難しめの私立に受かったってことが、自分にもこんなことができるんやっていう風になったので。勉強における自分の自己効力感みたいなのが高まった感じで。自信がついて、傲慢になるとかではなくて。しんどいことがあっても、成功した経験が支えてくれるというか。自分のメンタルが壊れそうな時ギリギリで、思い出して、持ちこたえさせてくれる。定期テストでもいいし、小テストでもいいし、何か自分にでき

る最大限の力で成功体験を日々作り上げていったら、しんどい時の自分の心の薬になるなって思います。

谷 村： 私の中では大学受験は、ただそこにあるものってというか、人生においてめちゃくちゃ大事っていう位置づけでもなくて。周りには浪人した人や大学を辞めた人、高校に行っていない友だちもいるから、大学受験が全てじゃないとはずっと思っていて。だからそこまで思いつめなくてもいいよとは思う。何回挑戦してもいいし。

小 阪： 後悔しないことと自信を持つこと。私は自分はラッキーだと思っていて。小さいことでもうまくいったら「ラッキー」って大げさなくらい喜んで。それってけっこう自信にもつながると思う。あと、やりきったら後悔なくスッカリするから、とりあえずやれるところまでやった方がいいと思う。で、うまくいったら自分をほめてあげるのが大事だと思います。

編集後記 ～インタビューを終えて～



受験生活は辛く苦しいことが多いと思いますが、この3人は辛くても意図的にいつも元気で明るく前向きに過ごしていたと思います。そして、その思考があったからこそ国公立大学に合格できたのだと思います。また、谷村さんは環境問題、橘さんは医療、小阪さんは教育・福祉と、それぞれが大学で学びたいことや将来のビジョンについて明確でした。そして、その夢を実現するために、高校生活がどうあるべきか、どう過ごすべきかを捉え、地道にコツコツと努力を積み重ねてきたのだと思います。自分らしく夢に向かう、そんな高校生活だったと思います。また、3人は、自分の意志や考えを明確に言語化する能力にも長けていたと思います。彼女たちが推薦入試のために書き上げた志望理由書は、高校生の文章とは思えない、知性と教養が滲み出る文章でした。それぞれの夢に向かって始まる大学生活が有意義なものになることを祈っています。受験お疲れさまでした。これからも頑張ってください。

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 岡 哲司